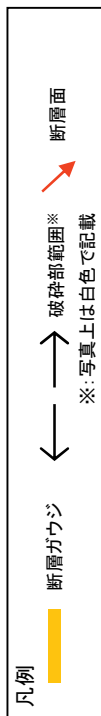


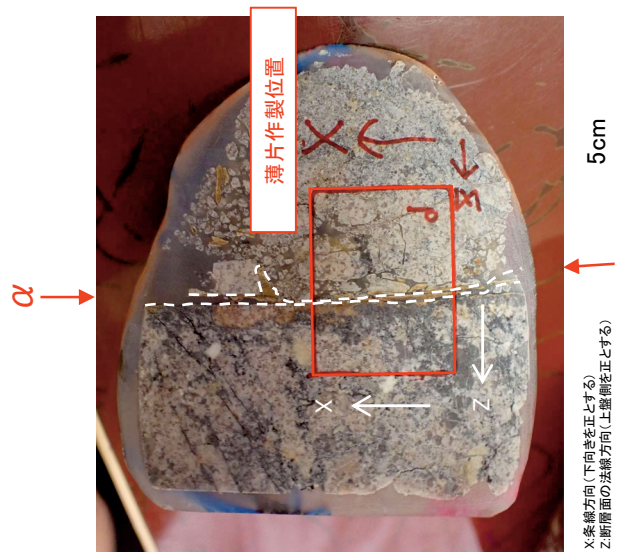
・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

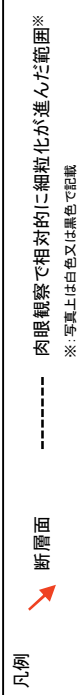
※断層面 α は最新活動面



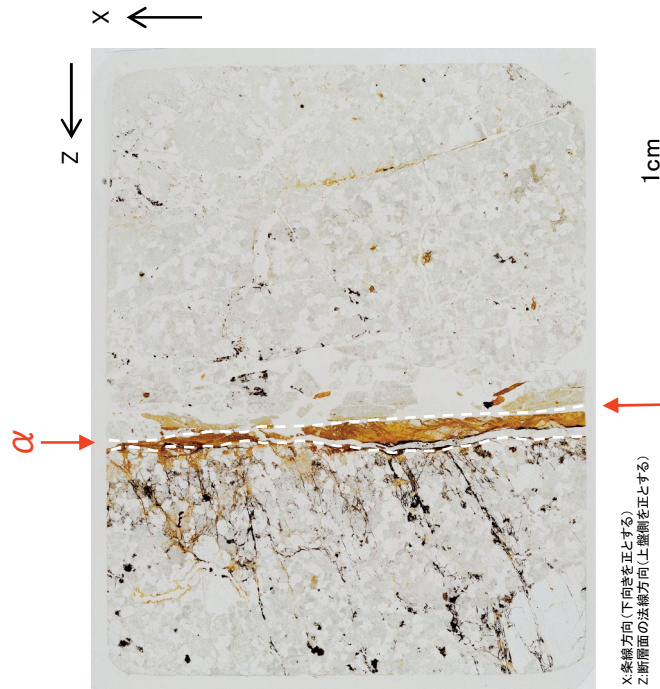
薄片作製位置写真



X: 糸線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上向きを正とする)

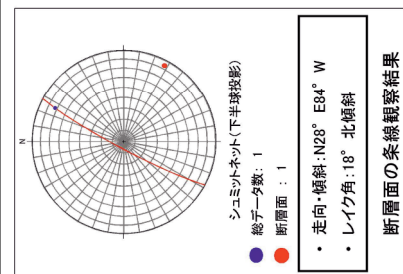


薄片全景写真(単コル)

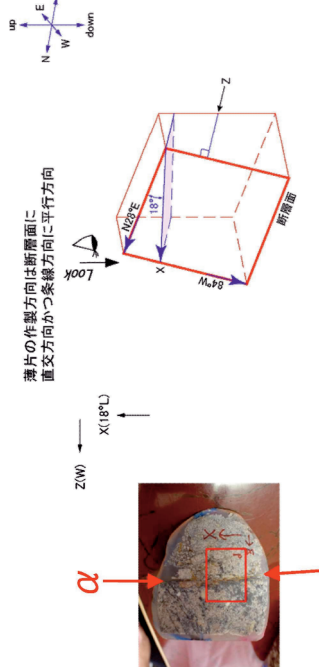


X: 糸線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上向きを正とする)

- ・H24-B14-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれ成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。

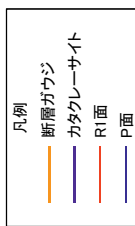
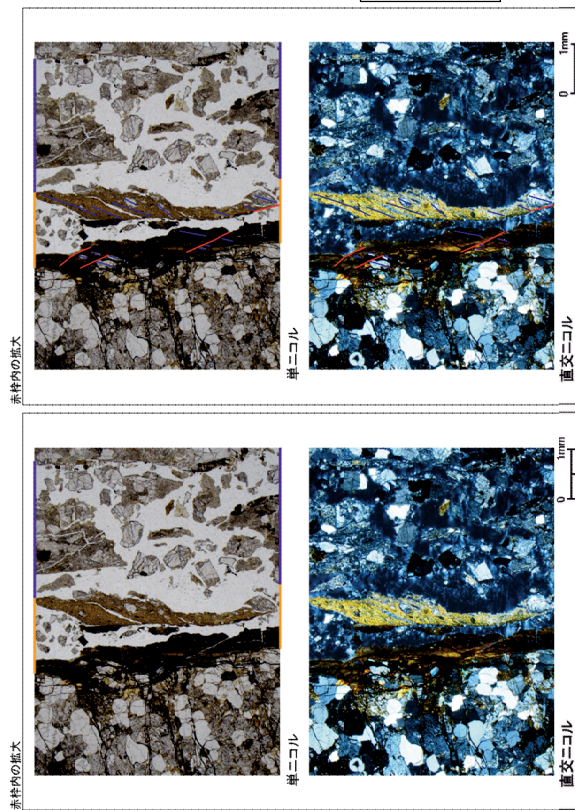
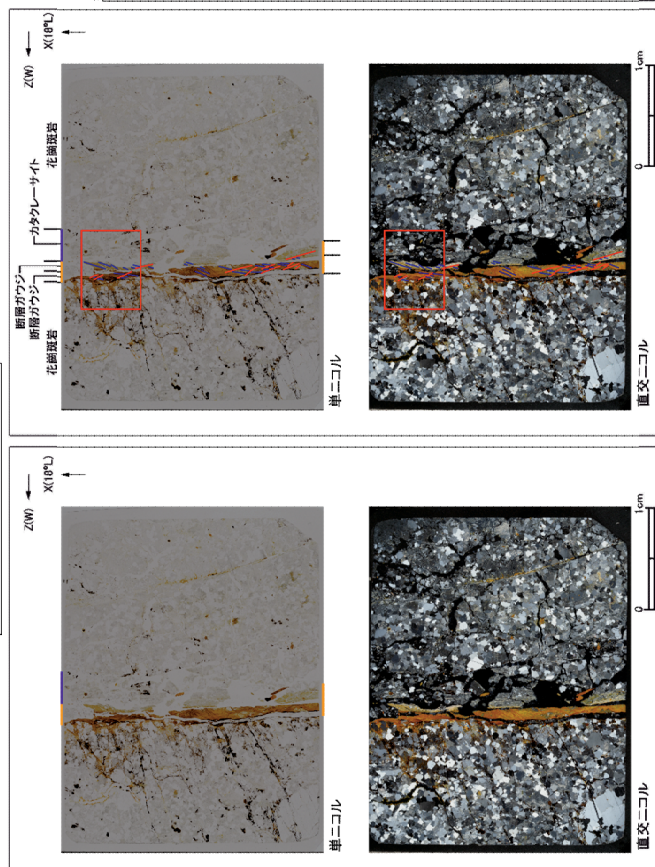


※断層面 α は最新活動面



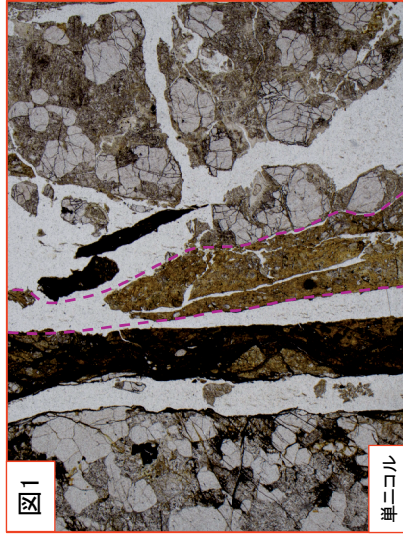
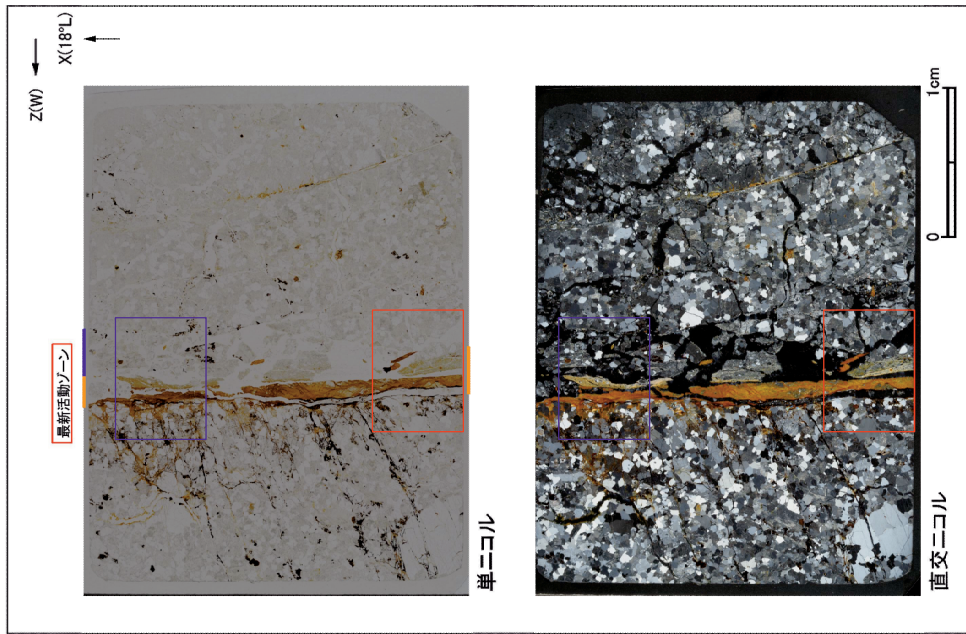
プロックサンプル
0 10cm

走向・傾斜 N28°E 84°W
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上部断層を正とする)

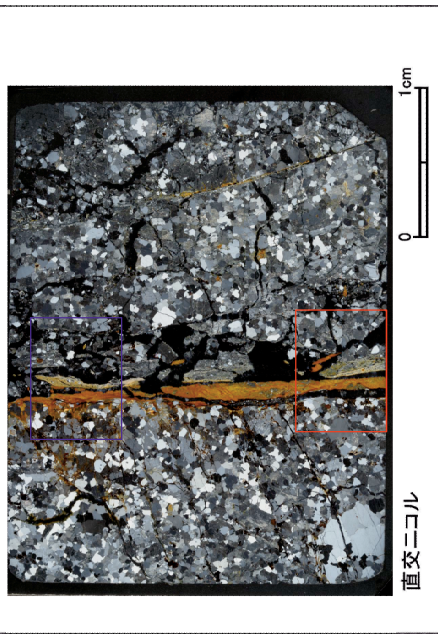
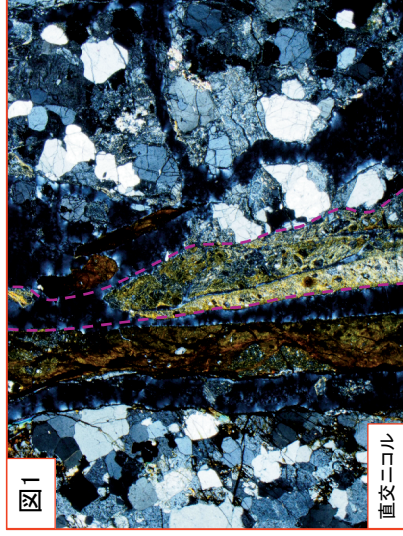


第7.4.4.359図 (3) 破碎部性状 H24-B14-1 深度61.09~61.22m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

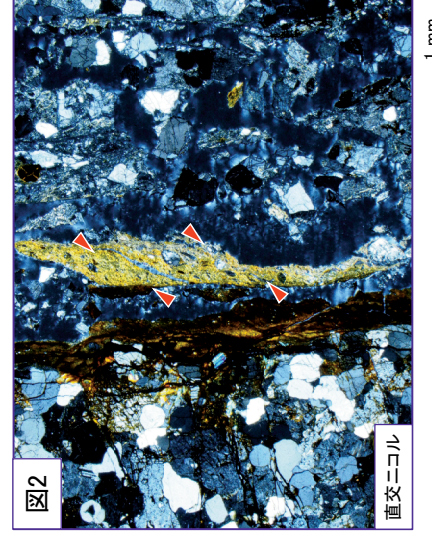
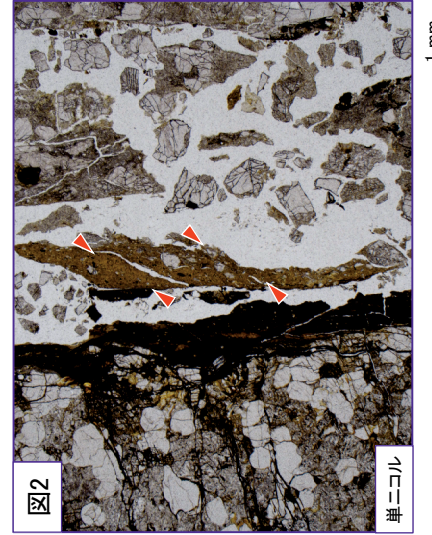
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)



破線は粘土状部の分布を示す

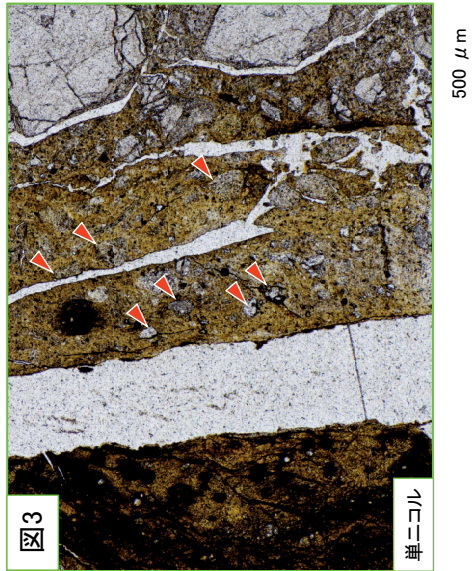
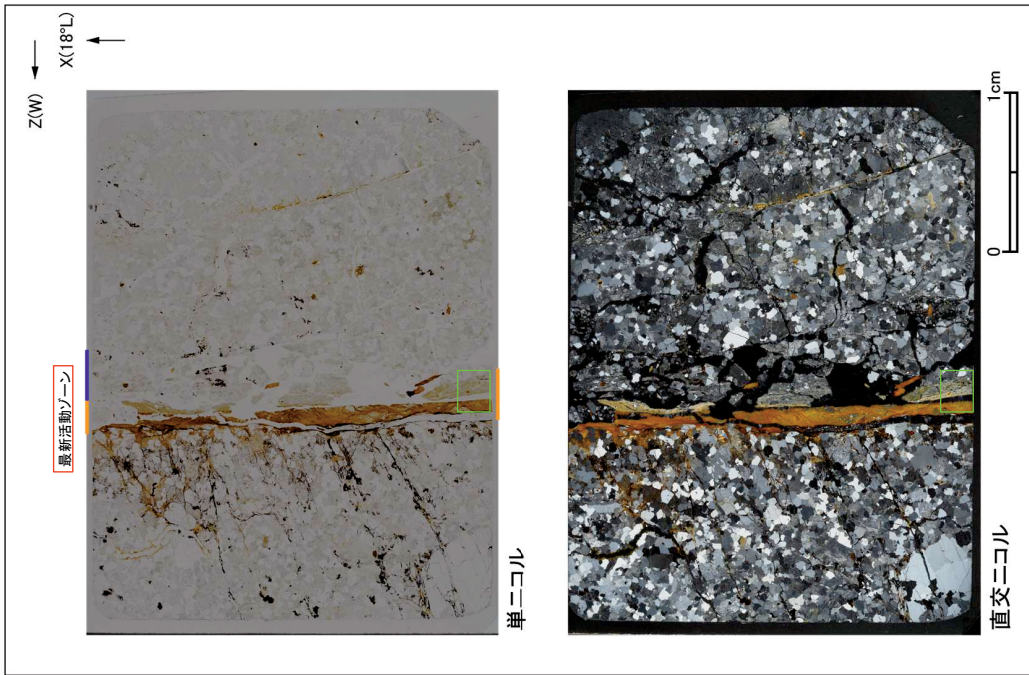


赤三角は岩片・粘土鉱物の定向配列を示す

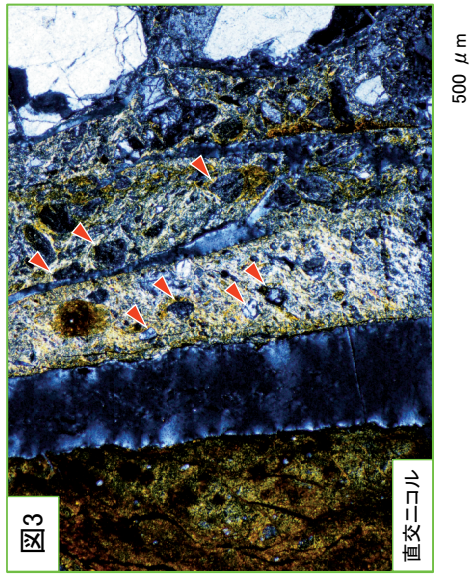


最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。

- 岩片は少ない。(図3)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図3)



赤三角は丸みを帯びた岩片を示す



凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト

(肉眼観察結果 深度61.09m)

- 深度61.09mにはフィルム状の細粒部を挟んでいる。幅が狭いため、肉眼観察では原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかったが、細粒部は連続性及び直線性が良いため、断層ガウジとして扱うこととした。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - セン断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

- 当該破碎部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。
- 肉眼観察で確認されたフィルム状の細粒部は、その特徴から断層ガウジとして扱うこととした。
 - 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	フィルム状	無

*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「一」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

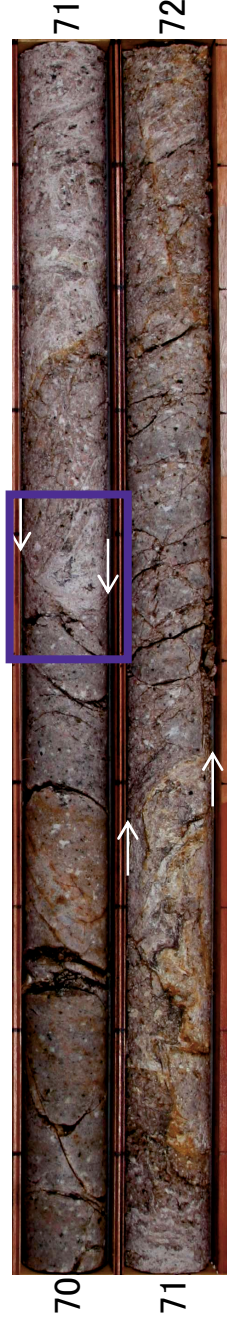
・深度70.54～70.74mの「角礫状」と記載の箇所については、やや硬質～硬質で、含まれる細粒部は一部で網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織が認められる。これらのことから一部変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度70.74～71.41mの「粘土混じり礫状」と記載の箇所については、やや硬質～硬質で、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が認められる。これらのことから一部変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●70.54～71.41m：破砕部
 上端48°、下端57°をなす。
 70.54～70.74m：角礫状部(Hj)
 上端48°で直線的、下端47°で湾曲する。不規則・不連続な粘土を含む。原岩の組織が見られる。明褐灰～灰白色を呈する。
 70.74～71.41m：粘土混じり礫状部(Hj)
 上端47°で湾曲、下端57°で波打つ。灰白色の粘土が網目状に見られる。岩片は軟質(硬さD)。明褐灰～灰白色を呈する。71.08～71.41m間は黄色粘土が優勢となる。

コア写真



凡例

← — — — — — → 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

灰白色粘土は網目状に分布する



青粋部拡大